

つくしだより



平成25年12月号

東京都精神障害者家族会連合会
(東京つくし会)
〒156-0056
世田谷区八幡山3-33-1
林マンション301
TEL/FAX:03-3304-1108
発行者 野村忠良
2013.12.15 第282号

「尊厳ある回復」がテーマの 学術大会にご参加を

東京つくし会会長 野村忠良

尊厳は平等に誰もが有している、人が生きることの基本です。尊厳が失われると、人は精神状態が不安定になり、自尊心や自信も弱まって精神障害がある人は回復が難しくなります。

この大会では、精神障害がある方とその家族の尊厳を回復するための方法について考えます。

*

この大会は日本精神保健福祉政策学会が開くもので、来年の2月1日(土)、午前10時から市ヶ谷のTKP市ヶ谷カンファレンスセンターホールで開催されます。

日頃は同学会で理事を務めている筆者が、今回は大会会長役を仰せつかっています。

*

プログラムの最初は、大会会長講演「尊厳ある回復の必要性と方法について」です。なぜ、尊厳が大切なのか、また真に回復を果たす為には、支援のあり方をどう改

善すべきなのかについて話します。

次に藤井克徳氏の基調講演「障害者権利条約の批准を前に、整えるべきこと」が続きます。精神障害を含む障害がある方たちの権利を守るための障害者権利条約の批准に向けて、国内の法律制度や施策をどう整えるべきかが提言されます。

*

午後はパネルディスカッションです。これから地域で発展してほしい支援のあり方を、先取りして進めている方々に出演して頂きます。

はじめに当事者の方々が、ご自分の回復について経験を語ってくださいます。

続いてこのころのホームクリニック世田谷の高野洋輔先生が、地域での先進的な訪問診療について話されます。その後、多摩在宅支援センター円の寺田悦子氏から地域で連携し、家族も対象に入れて行う訪問支援について。さらに認知症の方々の在宅支援で浜田クリニックスの梶原徹先生と

ウィズユー訪問看護ステーションの與那覇五重氏が、それぞれ発言なさいます。

7人目に、早期訪問支援で巣立ち会の長門大介氏、続いててんかん協会の当事者の方と東京つくし会の眞壁博美副会長がお話をなさいます。

座長は巣立ち会の田尾有樹子氏と当事者の竹内政治氏です。

*

この大会への皆様のご参加をお願い致します。すでに人権擁護が確立された未来社会の市民になったつもりで、一緒に今後のあり方を考えてみましょう。

日本精神保健福祉政策学会

第23回学術大会

日時 平成26年2月1日(土)

午前10時〜午後5時

場所 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター6C

(JR市ヶ谷駅横の市ヶ谷橋を渡り突当りのビルの左隣のビル6階。駅から徒歩5分)

立川麦の会二十五周年記念行事終わる

立川麦の会会長 眞壁 博美

十月六日（日）、十四時～一七時、立川グラウンドホテルで、「立川麦の会創立二十五周年記念式典・祝賀会」を開催しました。参加者は、六十八名（来賓三十名、会員三十八名）で、盛大に行われました。来賓は、立川市役所、多摩立川保健所、立川市社会福祉協議会、立川市障害者後援会理事、市内関係団体、他障害者団体、医療機関、近隣家族会などの方々です。

式典では、来賓挨拶として立川市福祉保健部長、多摩立川保健所長、立川市社会福祉協議会会長、立川市障害者後援会副会長、東京つくし会会長より温かいお祝辞をいただきました。それから、「立川麦の会の紹介（発足から現在まで）」を、スクリーンに写真など映しながら眞壁が解説しました。話だけでなく、写真やグラフなど



の視覚に訴えながらの解説は大変良かったとの評価を得ました。その後、「これからの家族会活動の方向をさぐる」と題したシンポジウムを行いました。シンポジストは、寺田悦子氏

（NPO法人多摩在宅支援センター円理事長）、野村忠良氏（東京つくし会会長）、眞壁博美氏（立

川麦の会会長）。司会は、岡田治氏（立川麦の会副会長）でした。たった四十五分間のシンポジウムでしたが「内容が大変良かったので、ぜひ報告集をつくって欲しい」という声もありました。

祝賀会も和やかに行われました。「立川麦の会コーラス」で「アンパンマンのマーチ」と「たんぽぽ」を披露しました。手品もあり、最後に全員で「三百六十五歩のマーチ」を合唱しおおいに盛り上がりました。

参加者には、「立川麦の会二十五周年記念誌」（A四版五十六ページ）と「生活上アンケート報告」を配布しました。

この二十五周年記念行事を計画するにあたっては、記念誌に多くの関係者からお祝辞をいただき、会員からもたくさん原稿や作品を寄せて頂きました。また、「生活上アンケート」（六月実施）は、当事者用と家族用の回答用紙を送りました。七十六名の会員のおよそ六割にあたる四十三通の回答がありました。当事者用回答に本人が回答してくれたものは二十枚もありました。報告書は、会員の他、関係機関・団体、市議会議員など三百部を配布しました。

このような行事を準備するのに以前から計画を立てていたのでは・・・と思われるでしょうが、決めたのは今年一月。記念式典をするための積立金は、七万円しかありませんでした。そこで、会員さんに一口五百円で「記念行事成功

のための募金」を呼びかけたところ、五十四名の会員・賛助会員から、三十三万円の募金が寄せられました。会員以外からも、四名の方が二万六千円をご寄付くださいました。「お金がないからできない」ではなく、「何かやろうと呼びかければ、お金も人もついてくる」ということを実感できた周年行事でした。

立川麦の会は、平成元年四月に共同作業所を作るために立ち上げた家族会です。保健所が開



催していた「家族懇話会」に参加した家族達が、保健師さんの支援を受けながら創りました。発足当時、家族会員は二十二名でした。今回、式典で麦の会を紹介するために、

会員数の推移をグラフにしてみたら、役員会を定例化してから（二〇〇三年から）会員が急に増えてきていることがわかりました。十一月現在で、家族会員七十八名ですから、二十五年間で三・五倍となったわけです。

この記念行事を糧に、これから三十周年に向け、新たな気持ちで家族会活動を続けていきます。



家族相談員養成講座

都連理事 徳山 尚子

今回は6つの事例が提出されたが、4題に絞って羽藤先生のご指導、ご助言を得て色々な角度から話し合った。中でも最初にあげられた事例は、通所先の作業所の職員に年賀状を出したのに、返事がもらえなかった。返事が欲しかったという事例は、ずいぶん時間をかけて議論が尽くされたと思う。はじめは単純な事例のような様相であったが、次第に親の世代と若い職員の世代との文化の違いということも考えさせられたり、いやいや、いつの時代であろうと、手紙をもらったら返事を出すのは当たり前だという方、そうではない、今のご時代に年賀状など書かない人は多い、自分もそうだ、勝手に年賀状を送ってきて返事を強要されるのは迷惑だーというようなご意見もあり、会場は熱気を帯びてお年玉付きの年賀状はあたるかどうかという夢を与えてくれる、そういう楽しみがあるのだという意見など実に様々であった。

羽藤先生の「人は低きにつく、どんなことにも言えるが初期のころを忘れないこと」という言葉はずしりと響いた。午前中のブロック会議に引き続きの相談員養成講座で長丁場となったが、各単会で誠実な相談対応をされているのだなあとしみじみ感じ入った。熱心な議論を肌で感じて嬉しかった。初心忘るべからずー大切に

していこう。



東京つくし会平成25年度第2回

東地域ブロック会議

都連理事 徳山 尚子

平成25年11月2日(土) 午前10時30分～12時15分北区滝野川会館にて15単会36名の出席者を迎えて東ブロック会議を開催した。午前中のブロック会議はいつもの会議と一味違って、6つの島にわかれ、テーマもそのチームごとに決めて話し合うというもの。滑り出しはスムーズにはいかなかったが、時間の制約のある中で、話はずんで肝心のテーマはそっちのけというところもあり、和やかな会議になった。話合いのテーマはやはり家族や当事者の高齢化の悩みが多く、それに伴って会員の減少、会の運営の難しさという問題も上がった。

訪問看護を受けるようになって家族間の緊張が少し和らいだーという話は、家族と当事者だけの閉ざされた家の中に、窓から新鮮な空気がスーッと吹き込んできたような感じだったのではないかしら。外に出ていくことの難しさ、外の空気を受け入れることへの抵抗。繰り返し語られる家族の苦勞。短い時間であったが、同じ弁当を囲みながら語らいが続いた。時にはこんなのもいいねーと言ってくださった会長さん達。お疲れ様でした。



新しい試みで「西ブロック相談員養成講座」がありました。

都連理事 本田 道子

なにか、新しいのでしょうか？

①会場は高田馬場にある「ネッコ カフェ」。喫茶店です。ただ他と少しだけ違うのは、そこで働いているスタッフは全員が「いわゆる発達障害」とよばれている方々です。ここは日本です。初めての発達障害の方たち自身があげた発達障害者による「就労の場」としての喫茶店なのです。「就労継続支援B型」の施設です。

②理事による家族自身の「ロールプレイ」にはじまる「相談の実際」の場面を目の前で見せしながら「電話相談」を行いました。

十月十九日(土)の昼下がり、まず理事が演じる相談場面を見ていただき、それぞれの気付きや注目点、を話し、また実際に演じる側(当事者・相談する母親・相談員)になつての気付き、など話合いました。大変な困難ケースもありました。が、相談をして良かった、とまず本人が納得することが大切、そして次につながる支援に結びつくように、など。

意見交換も活発で当日参加してくださった皆様には大変好評をいただきました。



第13回全国障害者

スポーツ大会の役員激励会にて

東京つくし会会長 野村忠良

去る10月13日に、東京都精神保健福祉民間団体協議会の伊藤善尚運営委員長の代理で筆者が全国障害者スポーツ大会の激励会に出席したときの話です。

どんな会か知らずに、四谷のホテルニューオータニの奥まった部屋に案内され待機していると、そこに皇太子殿下はじめ猪瀬都知事、厚生労働副大臣、大会運営役員の方々が入ってこられました。実は、皇太子殿下が大会役員を激励なさるために開かれた11名での昼食会なのでした。

食事を頂きながらの懇談で、筆者はひたすら聞き役に徹していたのですが、ふと、親しいひきこもりの方がフットサルに参加して生き甲斐を得たことを思い出し、ひきこもりの方のスポーツや趣味への参加の機会を増やしてほしいと訴えましたら、後日、宮内庁から筆者に問い合わせがありました。また、都知事が国民は目的を見失っているからオリンピックを盛り上げようとおっしゃったので、筆者は日本を精神障害者の人権を守ることで世界一の国にしようという提案しました。



☆賛助会費☆(敬称略)

山本メンタルクリニック 5000円
金杉クリニック 3000円

ありがとうございます。



講演会のお知らせ

☆1月11日(土)

「非自発的入院(措置・医療保護)の入院中・退院後の家族の関わり方の2」

講師…精神保健福祉士 西田 崇大氏
主催…新宿フレンズ

Tel 03-3398719788

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いいたします。

東京つくし会電話相談室



東京つくし会の理事(家族)が交代でさまざまな相談に応じています。

電話 03-3304-1334

毎週木曜日(祝日は休み)

11:00～16:00

※当相談室は、面談による相談はお受けしておりません。

また、相談の内容によって、別途お時間をいただくこともあります。

編集後記

39歳の息子は統合失調症でいまだ入院中である。6回目の入院で13年も入院している。一進一退で思うようにいかない。病状が悪くなると攻撃的になる。入院中の患者さんと仲良くできるといいのだが…。「病院から地域へ」と言われて久しい。でも息子のようにならぬと私は、一生病院でもいいから、心穏やかに生きていってほしいと思ってしまう。

私は今、団地の一括建て替えのため狛江市に仮住まいをしている。引っ越してみたらすばらしい川があった。野川である。急いで引っ越し先を探したので、そばに川があるなんて気がつかなかった。川の両側は歩道で車は入ってこない。毎朝散歩を楽しんでいる。四季折々の野草や樹木、大きな鯉、サギ、カモ、カワウ、セキレイなどの水鳥やシジュウカラ、ヒヨドリなどの野鳥と出会う。ときにはひすい色のカワセミとも会えるのだ。カワセミと会えた朝は、「今日は何かいいことがある…」と思う。

息子の病気のことをふっと忘れさせてくれる野川である。

都連理事 松原のり子



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。